

保健所等におけるHIV抗体検査件数

昭和63年まで	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	合計
47,470	7,864	10,649	10,980	135,674	116,712	81,495	57,978	72,186	46,237	53,218	48,218	48,754	69,925	61,652	75,539	89,004	100,287	116,550	1,250,392

保健所における相談件数

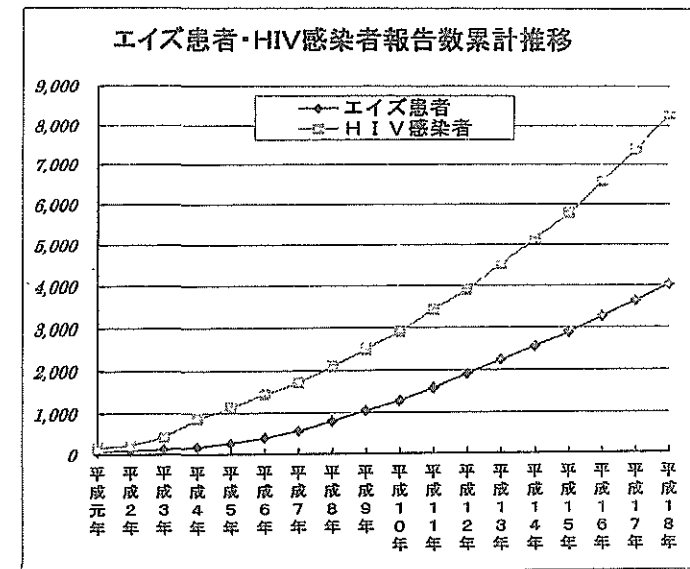
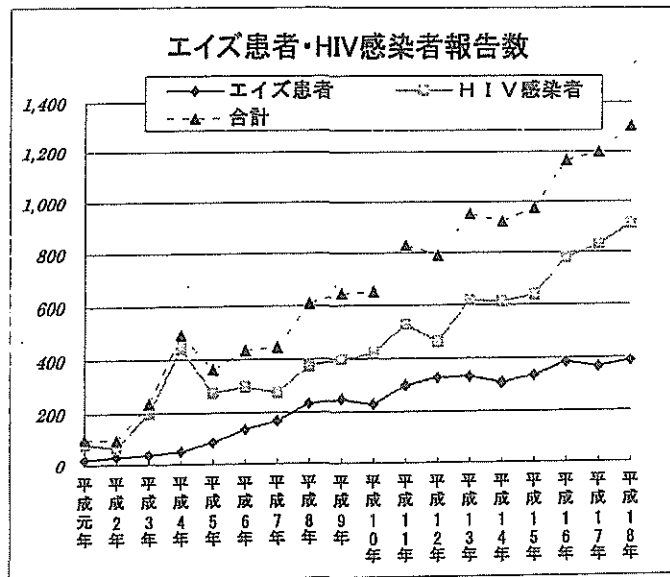
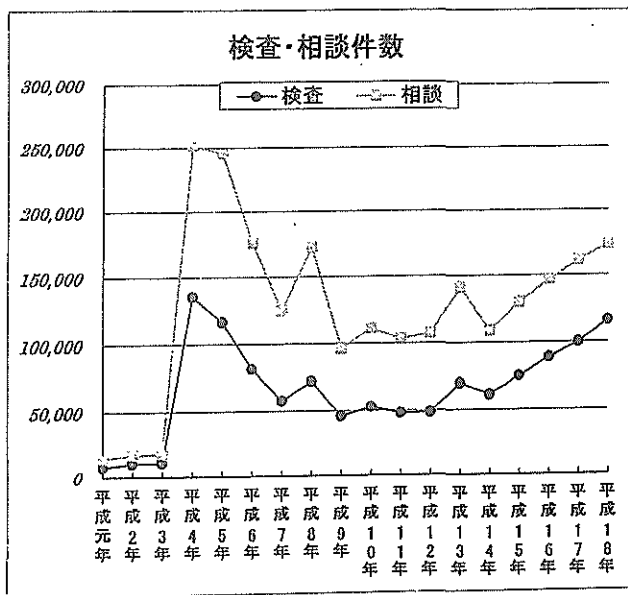
昭和63年まで	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	合計
132,004	14,603	17,458	18,002	251,926	245,299	175,837	124,735	172,641	96,735	111,046	103,206	107,266	141,269	108,911	130,153	146,585	161,474	173,651	2,432,801

エイズ患者・HIV感染者報告数

昭和63年まで	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	合計
39	21	31	38	51	86	136	169	234	250	231	301	329	332	308	336	385	367	390	4,034
78	80	66	200	442	277	298	277	376	397	422	530	462	621	614	640	780	832	914	8,306
117	101	97	238	493	363	434	446	610	647	653	831	791	953	922	976	1,165	1,199	1,304	12,340

<上段:エイズ患者報告数 中段:HIV感染者報告数 下段:エイズ患者・HIV感染者の合計>

(速報値)



平成19年2月7日(水)
 照会先：医薬食品局血液対策課
 担当者：武末，秋楽
 TEL:03-5253-1111(内線)2905、2904
 03-3595-2395(直通)

献血件数及びHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数

年	献 血 件 数 (検 査 実 施 数)	陽性件数 () 内女性 [] 内核酸 増幅検査 のみ陽性	10万件 当たり
	件	件	件
1987年 (昭和62年)	8,217,340	11(1)	0.134
1988年 (昭和63年)	7,974,147	9(1)	0.113
1989年 (平成元年)	7,876,682	13(1)	0.165
1990年 (平成2年)	7,743,475	26(6)	0.336
1991年 (平成3年)	8,071,937	29(4)	0.359
1992年 (平成4年)	7,710,693	34(7)	0.441
1993年 (平成5年)	7,205,514	35(5)	0.486
1994年 (平成6年)	6,610,484	36(5)	0.545
1995年 (平成7年)	6,298,706	46(9)	0.730
1996年 (平成8年)	6,039,394	46(5)	0.762
1997年 (平成9年)	5,998,760	54(5)	0.900
1998年 (平成10年)	6,137,378	56(4)	0.912
1999年 (平成11年)	6,139,205	64(6)	1.042
2000年 (平成12年)	5,877,971	67(1) [3]	1.140
2001年 (平成13年)	5,774,269	79(1) [1]	1.368
2002年 (平成14年)	5,784,101	82(5) [2]	1.418
2003年 (平成15年)	5,621,096	87(8) [2]	1.548
2004年 (平成16年)	5,473,141	92(4) [2]	1.681
2005年 (平成17年)	5,320,602	78(3) [2]	1.466
2006年 (平成18年)	4,987,857 (速報値)	87(3) [1]	1.744

- (注1)・昭和61年は、年中途から実施したことなどから、3,146,940件、うち、陽性件数11件(女性0)となっている。
 (注2)・抗体検査陽性の血液は廃棄され、製剤には使用されない。
 ・核酸増幅検査については、平成11年10月より全国的に実施している。
 (注3)・平成18年は、1月～12月までを集計した速報値。

平成19年2月7日

エイズ動向委員会の結果報告について

- 1 本日の委員会では、平成18年10月2日より平成18年12月31日までの感染症法に基づく患者・感染者報告並びに平成18年10月1日から平成18年12月31日までの任意報告を解析した。
- 2 平成18年10月2日より平成18年12月31日までの間に感染症法に基づき報告された新規エイズ患者数は85件、新規HIV感染者数は235件であった。
患者85件、感染者235件の内訳は、
 - ① 感染原因別では、異性間の性的接触による患者26件、感染者56件、同性間の性的接触による患者44件、感染者154件、静注薬物濫用による患者1件、その他の原因による患者2件、感染者8件、原因不明の患者12件、感染者17件であった。
 - ② 性別では男性患者78件、感染者212件、女性患者7件、感染者23件であった。
 - ③ 年齢区分別では、患者は20代9件、30代31件、40代10件、50歳以上35件、感染者は10代5件、20代61件、30代91件、40代46件、50歳以上32件であった。
 - ④ 国籍別では日本人患者77件、感染者213件、外国人患者8件、感染者22件であった。
 - ⑤ 感染地域別では、国内で感染した患者67件、感染者207件、海外で感染した患者8件、感染者16件、感染地域不明患者10件、感染者12件であった。
- 3 患者85件、感染者235件のうち
 - ① 異性間の性的接触による患者26件、感染者56件のうち日本人男性は、患者21件、感染者35件、日本人女性は、患者3件、感染者12件であった。
また、外国人男性は、感染者3件、外国人女性は、患者2件、感染者6件であった。
同性間の性的接触による患者44件、感染者154件のうち日本人男性は、患者42件、感染者147件であった。
また、外国人男性は、患者2件、感染者7件であった。
 - ② 日本人男性患者73件のうち20代6件、30代28件、40代8件、50歳以上31件、日本人男性感染者200件のうち、10代5件、20代45件、30代80件、40代44件、50歳以上26件であった。
また、日本人女性患者4件のうち30代1件、50歳以上3件、日本人女性感染者13件のうち、20代5件、30代5件、50歳以上3件であった。

③ 外国人男性患者5件のうち、20代1件、30代2件、40代1件、50歳以上1件、外国人男性感染者12件のうち、20代6件、30代2件、40代2件、50歳以上2件であった。

また、外国人女性患者3件のうち、20代2件、40代1件、外国人女性感染者10件のうち、20代5件、30代4件、50歳以上1件であった。

④ 国内感染による患者67件のうち日本人男性が61件、日本人女性が3名、外国人男性が3件であった。

また、国内感染による感染者207件のうち日本人男性が187件、日本人女性が11件、外国人男性が6件、外国人女性が3件であった。

⑤ 海外感染による患者8件のうち日本人男性が4件、外国人男性が2件、外国人女性2件であった。

また、海外感染による感染者16件のうち日本人男性が9件、日本人女性が1件、外国人男性が2件、外国人女性が4件であった。

4 任意報告により

① キャリア等からエイズ患者になったとの報告は1件であった。

② 患者・感染者の死亡は、AIDSが原因の1件、それ以外の3件であった。

5 平成18年1月から12月末までの保健所等におけるHIV抗体検査件数は93,497件、うち自治体を実施する保健所以外の検査件数は23,053件、保健所における相談件数は173,651件であった。

6 平成18年1月から12月末日までの献血件数4,987,857件(速報値)のうち、HIV陽性件数は87件であった。

委員長コメント

【平成 18 年第 4 四半期】

- 1 今回の報告期間は平成 18 年 10 月 2 日から平成 18 年 12 月 31 日までの約 3 か月である。
法定報告に基づく新規 H I V 感染者報告数は 235 件（うち男性 212 件、女性 23 件。前回報告 233 件、前年同時期 195 件）で、平成 18 年第 2 四半期の 248 件に次いで過去 2 位となった。
一方、新規 A I D S 患者報告数は 85 件（うち男性 78 件、女性 7 件。前回報告 107 件）で、前年同時期の新規 A I D S 患者報告数は 89 件である。
- 2 感染経路別に見ると、新規 H I V 感染者では同性間性的接触によるものが 154 件（全 H I V 感染者報告数の約 66%）と最も多く、そのうち 147 件が日本国籍男性であった。
また、異性間性的接触による新規感染者報告数は 56 件（全 H I V 感染者報告数の約 24%、うち男性 38 件、女性 18 件）である。
一方、新規 A I D S 患者では同性間性的接触によるものが 44 件（全 A I D S 患者報告数の約 52%）、異性間性的接触によるものが 26 件（全 A I D S 患者報告数の約 31%、うち男性 21 件、女性 5 件）となっている。
年齢別では、新規 H I V 感染者は 20～30 代が多数（約 65%）を占め、新規 A I D S 患者は 30～50 代と広く分布している。
要約すると、感染者・患者とも 90%以上を男性が占め、その中でも同性間性的接触による感染が半数以上（約 68%）を占めている状態である。
- 3 平成 18 年 10 月～12 月末までの保健所における H I V 抗体検査件数は 31, 141 件、自治体を実施する保健所以外の検査件数は 6, 308 件、保健所における相談件数は 53, 043 件となっており、いずれも前回及び前年同時期よりも大幅に増加した。

【平成 18 年 年間報告（速報値）】

- ◇ 第 105 回～第 108 回動向委員会への報告数（平成 18 年 1 月 2 日～平成 18 年 12 月 31 日）を集計して、平成 18 年 1 年間を通しての数値を速報値として報告する。
- 4 平成 18 年 1 年間の新規 H I V 感染者報告数（速報値）は 914 件、新規エイズ患者報告数は 390 件、合わせて 1, 304 件（一日あたり 3.6 件）で、いずれも昨年までの速報値及び確定値と比較して過去最高を記録した。
※ 速報値の最高は、平成 17 年の H I V 感染者 778 件、平成 16 年のエイズ患者 366 件。合計は平成 17 年の 1, 124 件。
※ 確定値の最高は、平成 17 年の H I V 感染者 832 件、平成 16 年のエイズ患者 385 件。合計は平成 17 年の 1, 199 件。
 - 5 平成 18 年 1 年間の保健所等における H I V 抗体検査件数（確定値）は、116, 550 件（前年 100, 287 件）で、昨年に引き続き 10 万件を超え過去 10 年間において最多件数となった。相談件数は 173, 651 件（前年同時期 161, 474 件）であった。

- 6 平成18年1年間の献血件数（速報値）は4,987,857件（昨年5,312,830件）で、そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数は87件（昨年78件）であった。10万件当たりの陽性件数は1.744件（昨年1.468件）で、前年より増加した。
- 7 新規HIV感染者報告数を感染経路別に見ると、男性同性間性的接触は依然半数を超えている。また年齢別では、20～40代にHIV感染が広がっているものの、前年と比べて30代以上の増加傾向を認めた。このような傾向と、検査・相談件数の増加が、6月に実施したHIV検査普及週間以降も持続し、さらに世界エイズデー期間前後にかけて増加していることを合わせて考えると、利用者の利便性に配慮した検査・相談事業による検査体制の整備について一定の成果が認められる。一方で、検査・相談件数が減少に転じている自治体もあり、今後も全国的に検査・相談件数の増加傾向が持続するのか注視していく必要がある。
- 8 各自治体においては保健所等を中心に、さらに利用者の利便性（夜間・休日等）に配慮した検査・相談事業を推進することが重要であり、HIV感染の早期発見による適切な治療の促進と感染拡大の抑制に努める必要がある。
- 各自治体（特に重点都道府県等）においては、今回の発生動向を考慮しつつ、エイズ対策推進協議会を開催し、予防も含めたエイズ対策計画を早急に策定の上、より一層のエイズ対策を推進されたい。
- また、国民はHIV・AIDSについての理解を深め、積極的に予防に努め、HIV抗体検査の早期受診に努めるべきである。